

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	ミュージカル
----	----	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	みんなのしるしごうどうがいしゃ みんなのしるし合同会社	団体ウェブサイトURL	https://minnanos.com/
代表者職・氏名	代表社員 前川秀樹		
制作団体所在地	〒 022-0002 最寄り駅(バス停) 大船渡線BRT 田茂山駅 岩手県大船渡市大船渡町字地ノ森27-10 2階 〒022-0003岩手県大船渡市盛町字木町6-4(事務所・スタジオ) 最寄り駅 JR大船渡線・三陸鉄道 盛駅		
電話番号	0192-47-5123		
ふりがな 公演団体名	みんなのしるし みんなのしるし	団体ウェブサイトURL	https://minnanos.com/
代表者職・氏名	代表社員 前川秀樹		
公演団体所在地	〒 022-0003 最寄り駅(バス停) JR大船渡線・三陸鉄道 盛駅 岩手県大船渡市盛町字木町6-4(事務所・スタジオ)		
制作団体 設立年月	2012年10月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表社員：前川秀樹	会計責任：前川一枝 会計監査：大倉宏治 制作：青木美由紀 事務：前野沙緒里 振付家：磯島未来、小山柚香 加入条件：芸術創造に関わり専門技術を有する方、実演家、制作スタッフ	
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者を置く	本事業担当者名	前川秀樹
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	前川一枝監査：大倉宏治

<p>制作団体沿革</p>	<p>みんなのしるし代表社員・前川十之朗(本名：前川秀樹)は、演出家としてベルリン(独)を拠点に欧州で舞台創作活動を行っていた。そんな中、東日本大震災が発生。2012年春に帰国後、国の委託を受け三陸沿岸の住民約70名の被災に関わる聞き取り調査を行った。その取材から、被災した地域を真に復興させていくのは、未来を担う若者たちであるということ、そして、失われつつある貴重な祭りや芸能という文化がこの地域の大きな魅力であり財産であるということを確認。被災の事実と東北の文化をさまざまな方法で表現・発信することを目的とし、2012年10月みんなのしるし合同会社を設立。集めた証言をもとにより多くの人々に事実を伝えたいという想いからミュージカル『いのちでんこ』を制作。2013年秋に高等学校で初演、現在まで全国の学校の芸術鑑賞を中心に約50公演行っている。2013年より文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業『習いに行くぜ！東北へ!!』をコーディネート。2014年からは三陸の自治体や団体とともに三陸国際芸術祭を毎年開催。2015年より国際交流基金アジアセンター主催「Sanriku-Asian Network Project」にて三陸の芸能伝承者のアジア派遣をコーディネート。文化庁との共催事業「アジア神々の系譜」を2018年より開始。本年はbeyond2020プログラム/日本博主催・共催型プロジェクトとして、国際交流基金アジアセンター、三陸国際芸術推進委員会主催「三陸国際芸術祭『縦』」を開催中。</p>	
<p>学校等における公演実績</p>	<p>●これまでの学校芸術鑑賞会実績 全国各地の中学校、高等学校において開催、計47校38公演。 ○2013(平成25)年度 中1校・高4校 岩手県立盛岡商業高等学校 他 ○2014(平成26)年度 高校8校 埼玉県立蕨高等学校、東京都立大泉桜高校 他 ○2015(平成27)年度 中6校・高6校 神奈川県立生田東高等学校、学習院中・高等科他 ○2016(平成28)年度 中5校・高8校 熊本市立必由館高等学校、福島県立小野高等学校平田校 他 ○2017(平成29)年度 中1校・高6校 千葉日本大学第一中学校 他 ○2019(令和元)年度 中1校・高1校 静岡大成中学校・高等学校 ●自主事業(子供との舞台美術ワークショップ併催、湘南地区防災NPO等と共催) ○2015(平成27)年度 鎌倉芸術館、2017(平成29)年度 鎌倉芸術館、2020(令和3)年度 アルカス SASEBO</p>	
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>○2021(令和3)年度 岩手県立盛岡青松支援学校中学部 修学旅行(岩手県沿岸南部方面)における復興学習・事前学習でのオンライン鑑賞(ダイジェスト)・修学旅行(大船渡市)における講話</p>	
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>ダイジェスト：https://youtu.be/zuSDN0pLFkI 公演動画：https://youtu.be/Bhz7HOBc0SQ 演目HP：http://inochi.xyz</p>
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID: PW:</p>

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 みんなのしるし合同会社】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	ミュージカル いのちてんでんこ			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	ミュージカル いのちてんでんこ 作・演出/前川 十之朗 美術/井上 信太 振付/小山 柚香、乾 直樹、緒方 祐香、前田 新奈 音楽/斎藤 有太 構成/田中 圭介 衣装/さとう みち代 舞台監督/菅原 玄哉 照明/青木 美由紀 音響/清水 等 公演時間 65～90 分			
著作権、上演権利 等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	被災地から未来へ、いのちの伝言。 津波が奪い去った町 傷だらけの大地で、人は何かを見つけた 音楽、ダンス、映像！ 圧巻のパフォーミングアーツでお届けする 喪失と再生の新しい神話。 ふたたび、人は祭りで繋がった！ ”みんなのしるし”は、東日本大震災の記録の収集を通して被災地の記憶の風化を防ぎ、命の尊さを内外に伝えていくことを目的に事業を行っています。被災地の証言や事業の記録をきめ細かく収集し、それを様々な形に変え、楽しみながら学び・考え・感じていただくために活動を重ね、5万人の方々にご観劇いただいております。 震災後、大船渡市・陸前高田市・気仙沼市など三陸沿岸の被災者約70名の証言を元に、郷土芸能や祭り、小集落の結びつきの強さなど、この地で育まれてきた独自の文化や営みの奥深さをすくい上げて制作された舞台作品”いのちてんでんこ”。 多くの人命を奪い、地域に壊滅的な被害を与える津波災害の経験や、復興に向かって生き抜く姿勢を、未来を担う子どもたちに”いのちの輝き”として伝えていける舞台作品となっております。作品を通して被災地の記憶と舞台芸術の新たな息吹を体感していただき、震災がもたらしたことや苦境での人と人との繋がりの大切さを、一緒に考えていただけたら幸いです。※別添あり:(1)			
演目選択理由	現在まで、中学校や高等学校の芸術鑑賞教室を中心に約5万人の子どもたちに「いのちの輝き」を伝えてきました。ワークショップや舞台を通じ、自然災害を体験することで、自然災害と向き合うことについて楽しみながらより深く考え、集落の意味、祭りの大切さを共有していく場を創ります。また、演目内容も現代舞踊(コンテンポラリー・ダンス)や今様のデジタル映像演出を取り入れたもので、現代の舞台芸術に触れることができる内容となっております。“舞台芸術”というこれまでの復興教育とは違った表現方法で誰もが楽しみながら参加でき、印象深い経験ができると考え選択しました。 児童・生徒たちの共演パートでは、東北で長く培われた芸能をモチーフに、歌や踊り、太鼓を通して出演者と一緒に”祭り”を表現します。また、各シーンで使用される映像美術にも参加することができ、舞台芸術による「未来への伝承」を理解していただけます。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	1.この作品には、東北の営みの中で培われた郷土芸能のエッセンスを現代のダンスと音楽でアレンジして表現するシーンが多数あります。物語の中の重要な「お祭り」のシーンで、児童・生徒全員が参加し、歌と踊りと太鼓で共演します。 2.全員が描く”心の落書き”を舞台美術として使用します。ワークショップで描かれた児童・生徒の色彩豊かなイメージや文字を映像美術として使用します。低学年や支援学級の児童でも無理なく楽しく参加できます。			
出演者	”大”役/熊谷 衡 “先輩”役/飯沼由和 “雪”役/福島梓 “新沼”役/長谷川 暢 アンサンブル/小山 柚香、合田 賢二、長谷部 萌絵、湯浅 文音 尺八・篠笛/大部 仁 和太鼓/上杉美穂 ※メンバー経歴等は別添(4)を参照			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 10 名 スタッフ: 9 名 合計: 19 名	運搬	積載量: 2 t 車 長: 6 m 台 数: 2 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		4	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時半	13時半～15時	0分	15時～17時	17時
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採 択決定後に確認します。(大幅な 変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	18日	19日	18日	20日	
	11月	12月	1月	計	148日	
	20日	16日	17日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	概ね180人まで(学校の規模による)
		鑑賞人数目安	概ね1,000人まで(会場の大きさによる)



公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出
やがわかる写真)

※採択決定後、
採択団体へ図面
等詳細の提出を
お願いします。



【公演団体名 みんなのしるし合同会社】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	概ね180人まで(学校の規模による)
ワークショップ実施形態及び内容	<p>～「祭り」から人とのつながり、復興と防災を考える～『太鼓を叩いて、大地を踏みならそう』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞(祭りの楽しさ、大切さを知る) ・芸能体験 ・語り継ぎ ・心の落書き ・デジタルアートと舞台芸術 <p>※別添あり:(2)</p>		
ワークショップのねらい	<p><鑑賞>本作品の主眼は、逆境の中、人を結びつけたのが「共生」であるということ。人は助け合い繋がりながら生きているということを演技の中で見いだすことができます。映像を用いながら作品につながるよう、わかりやすく解説します。また、巡回地域の災害や芸能をあらかじめリサーチし、想いの共有も図っていきます。</p> <p><共演の事前学習>公演地域の芸能の成り立ちや、被災地での芸能の役割などを説明し、地域の文化の大切さ、言葉にはできない共通の言語が地域にあることを共有したうえで、共演シーンについての事前学習を行い、期待感を高めていきます。</p> <p><舞台映像美術の制作>本作品は、多くのシーンで実写とグラフィックを融合させた現代的な映像演出をします。祭や集落の説明、芸能体験(稽古)、被災地のショート作品を観た後、感じたこと、話し合ったことをイラストや文字にし、さらに合成し舞台で使用します。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>特別支援学校各校の児童生徒の実態等に応じ、参加人数や対象学年、ワークショップの内容を検討し柔軟に対応します。</p> <p><鑑賞の指導・共演の指導></p> <p>子供たちの参加の仕方について学校担当者と事前打ち合わせを密に行い(例:鑑賞内容や説明方法の工夫、踊りの一部を簡略化、肢体不自由の子供が自力で鳴らせる楽器の使用を検討、聴覚過敏や訪問教育等の理由により会場に入ることが難しい子供たちもZoom等につながりながら参加できる可能性を探るなど)一人一人が主体的に参加できる内容を学校と相談し決定します。</p> <p><映像美術の制作></p> <p>文字やイラストで感じたことを表現するのが難しい児童生徒には、あらかじめ用意された下絵を用いて自由に色をつける活動等を用意します。極太の水性サインペンを主に使用しますが、実態に応じ学校で他の画材を準備してもよいこととします。</p>		

リンク先	No.2	【公演団体名 みんなのしるし合同会社 】
演目概要	<p>【ストーリー】 市役所に入庁したばかりの若者がいた。 『あの日』若者はデスクに向かっていた。 東日本大震災、窓の外の光景に若者は絶句する。 避難所の世話係になった若者は、避難民と共に生活するようになるが、自分の非力さに苦悩する。 だが若者は気づく。目にうつる、人々の愛おしいつながり。 震災をきっかけに、老人たちと子どもたちが親密に暮らしている。 彼らがわかちあうのは、この土地に根付いた文化、芸能。 そこには前に進もうとする人達がいた。 やがて避難所に仮設風呂ができ、若者は黙々と薪割りをつづけた。 食事は白いオニギリだけ。頬張ると、若者の頬を涙がつついた。 すべてに感謝の念がわいた。 そして若者は驚く。『あの日』を経験する前からあったはずの空、そして憎いはずの海的美しさに。 極限状態のなか、若者の命はかがやき、やがて被災地の太陽となる。</p> <p>【公演アンケートより】 私は今回の芸術鑑賞で、ミュージカル「いのちてんでんこ」を観て、津波の恐ろしさについて、そしてそこで生き抜いた人々の強さについて改めて考えさせられました。雪と大の会話で、残念ながら亡くなられた方々の想いについても、生き残った人は忘れてはならない、これからの世代に伝えなくてはならないのだと思いました。先輩が、全て自分のせいと追いつめられてしまったのは、周りの人たちと想いを共有できず、辛さや悲しみを溜め込んでしまったからだと思いました。苦しい時だからこそ、周りの人たちと協力し合いながら、生きなくてはならないのだと思いました。私は津波にはあっていないけれど、この作品で3・11を体験し、生き残った者として、強く生きなければならぬと感じました。 中学校3年生</p> <p>東日本大震災が起こってから、祭りが途絶えそうになったのを変えようと行動していて、でも、思うようにいかない苦しさを感じた。祭りが人々のパワーになることは、自分もさんさ踊りをとおして思ったことがあったので共感した。ほんの小さな幸せでも涙を流してしまうほど辛く、心に傷を負った出来事であると強く思った。 特別支援学校 中学部3年生</p> <p>東日本大震災によって多くの方々が犠牲になりました。いま、私たち、被災地に暮らす者は切に願っています。もう二度と、同じ悲しみを味わう人がいないことを。そして、他の地域に暮らす人々が、このような悲劇にのみこまれないことを。 ミュージカル「いのちてんでんこ」は、気仙地方の被災者の証言を元にしてしています。悲劇を目の当たりにした、生の声を舞台にしたものです。そこにこめられた、さまざまな問いかけや記憶を感じてください。 そして、それが、自然災害、家族、命について皆様に考えていただくきっかけになれば幸いです。 陸前高田市長 戸羽太</p> <p>【復興学習後に寄せられたメッセージ(特別支援学校 中学部生徒・職員より 抜粋)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が成し遂げたいことに努力し続ける重要さを感じました。「続ける」ことで互いに大切な存在を築くことができるのだと思いました。私はすぐに無理だと思ったことはやりもせず諦めてしまいます。続けなければなにか結果が待っているかもしれないと思って、やってみることが必要だと思いました。 ・「この地域が『こんなことができるんだ』『こんなことができた』というのが町づくりだよ」と言われ、自分でもできることがあるんだなということを感じました。僕も、買い物をしたり、津波のことを知らない人達に伝えたりすることで復興を手伝っていきたくてと思いました。 ・挫折を乗り越えるためには、夢を持つことが大事だということがわかりました。私も夢や目標をしっかりと持って生活していきたいと思いました。本当にありがとうございました。 ・これまで復興についてどこか他人事のように感じていた生徒たちでしたが、自分達にもできることがあるという気づきをいただきました。また、前川さんの生き方や考え方に勇気づけられたり励まされたりした生徒も多く、これから進路選択をするにあたり自分自身の生き方を見つめ直すきっかけとなりました。今後の復興学習や進路学習でさらに学びを深めていきたいと考えております。 	

リンク先	No.3	【公演団体名 みんなのしるし合同会社 】
ワークショップ実施形態及び内容	<p>ワークショップ・プログラム詳細 所要時間90分(途中休憩あり)</p> <p>～「祭り」から人とのつながり、復興と防災を考える～ 『太鼓を叩いて、大地を踏みならそう』</p> <p>飢饉、疫病、自然災害と向き合ってきた東北の祭り なぜ、人々は祭りを通して一つになれたのか？ 踊り・歌・太鼓・ドラマの体験を通して、「芸能の力」や芸能が繋いできた「命」について考え、話し合い、語り継いでいくことの大切さにふれる機会を作ります。</p> <p>1. 祭りの楽しさ、大切さを知る(プロジェクター上映) 被災地の集落を一つに結びつけたのは”祭り”でした。 多様な東北の芸能が集落を一つに繋げてきた歴史をオリジナル映像で説明します。 また、巡回地域の芸能や災害の歴史にも迫ります。</p> <p>2. 芸能体験(歌舞曲の公演共演のための練習) 岩手の民話を主題にした楽しくも奥深い歌舞曲”こつつあこ”*1を、踊り・和太鼓・歌の3パートに分け、公演での共演に向け稽古します。 事前に映像(YouTube /DVD)と譜面で歌を覚えておいてください。集落を結びつけてきた東北の芸能と現代のポップスを融合させた歌舞曲です。 *1 ”こつつあこ”とは、こっちにおいてという東北の方言です。 郷土芸能の剣舞をもとにした振付となっています。 大地を踏み鳴らす踊りは、お相撲のシコをふむのと似ています。 集落を一つにするための芸能で重要なことは、リズム・メロディー(歌)・喜びの共有です。</p> <p><参考映像>歌舞曲”こつつあこ” https://youtu.be/Bhz7HOBc0SQ?t=2591</p> <p>3. 語り継ぎ(証言からできた小さな物語) 講師(出演者)によるショート演劇作品の上演をします。 物語は、防災科学研究所主催の防災ラジオドラマコンテスト受賞作品など、被災者の証言を用います。体験した方々の話をどのように未来に語り継いでいくのか、みなさんがどう感じどんな感想をもったのかを、次の章で話し合います。 児童生徒の学年や実態に応じ、理解し学べる数作品を用意しています。</p> <p>4. 心の落書き(感じたことを描き本番の舞台を彩ります) 語り継ぎのショート作品を観た後、5人程度のグループに分かれ、作品の感想やテーマを話し合い、イメージや浮かんだ言葉を模造紙に自由に描いていきます。学年や実態に応じ、あらかじめ用意された下絵(仮面や動物など)を用いて自由に色をつける活動にかえることもできます。 5人1組程度のグループにすることで、人前で話すことに消極的な児童生徒の意見もすくい上げます。 言葉にすることが苦手な子供たちも自由に色をつけ表現することができます。</p> <p>5. デジタルアートと舞台美術 公演では、様々な映像を美術として使用します。先の章の模造紙から、文字や画像をデジタルで抜き出し、公演のワン・シーンを彩ります。 映像ディレクターが「心の落書き」を実際にデジタル処理し、デジタルと生の表現の可能性を体験していただきます。</p>	

リンク先	No.2	【公演団体名 みんなのしるし合同会社 】
出演者	<p>別紙メンバー表</p> <p>“大”役 熊谷 衡 岩手県陸前高田市出身。東日本大震災当時、小学5年生。最も被害の大きかった陸前高田市気仙町で被災。家屋は全壊、避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされた。大船渡高校に進学し、演劇部に所属。第40回岩手県高等学校総合文化祭演劇部門で鉛屋法水の戯曲「ブルーシート」を上演し 優秀賞第1席・東北大会出場権獲得。</p> <p>“先輩”役 飯沼 由和 宮城県仙台市出身。演劇ユニット言言(kotokoto)代表。役者、演出家。 主な出演作に『蛙昇天』(長塚圭史 演出)、『十二人の怒れる男』(平成30年度 文化庁芸術祭優秀賞)等。</p> <p>“雪”役 福島 梓 3歳よりバレエを始めポリショイバレエ学校教授陣らに師事。橘バレエ学校入学。AMスチューデント、日本ジュニアバレエ合格。新国立劇場バレエ団の子役等で出演。埼玉全国舞踊コンクール朝日新聞社賞受賞。桐朋学園芸術短期大学専攻科演劇専攻修了。 現在はフリーの俳優・ダンサーとしてNODA・MAP 作品、福田善之作品、ズズキ拓朗作品、TV-CM、アーティストのPV等、様々なジャンルで活動。Azusa Ballet Classバレエ講師。 自身で立ち上げた声×身体×音楽【あそぼ企画】でも創作活動を行っている。</p> <p>“新沼”役 長谷川 暢 神奈川県出身。玉川大学芸術学部パフォーマンス・アーツ学科卒。2012 年より Co.山田うんに参加し、「季節のない街」「春の祭典」等の作品出演やワークショップでカンパニーメンバーとして活動中。また富士山アネット等にダンサーとして出演する他、和太鼓奏者として東京打撃団で活動。役者・音楽家と多彩な表現を展開。2019三陸国際芸術祭の三陸芸能短期留学にて、岩手県大船渡市の民俗芸能を習う。</p> <p>アンサンブル 小山 柚香 長野県長野市にてクラシックバレエとジャズダンスを、玉川大学芸術学部にて、コンテンポラリーダンス、声楽、演技を学ぶ。卒業後、コンテンポラリーダンサーとして活動。パフォーマンス・シアター・グループ Comp.を主催、数々のパフォーマンス作品を発表。イベントやワークショップの企画、地方でのレジデンス活動も行う。現在はソロ活動を中心にしており、junjun science、ピチェ・クランチェン、GRINDER-MAN等作品の出演経験をもつ。2020三陸国際芸術祭の三陸芸能短期留学(オンライン)にて、岩手・青森の民俗芸能を習う。</p> <p>合田 賢二 舞台芸術学院ミュージカル科卒業後、劇団四季に入団。『魔法をすてたマジョリン』、『ジョン万次郎の夢』、『王子とこじき』に出演。退団後も数々の舞台に出演。現在は青い鳥ティアティカルカンパニーにて出演、振付担当する傍ら、ヨガインストラクターとして都内各地のヨガスタジオで指導している。</p> <p>長谷部 萌絵 3歳よりクラシックバレエをはじめ。前田新奈、有光風花他に師事。15歳でコンテンポラリーダンスに出会い、2011年埼玉全国舞踊コンクールジュニア部にて毎日新聞社賞を受賞。2009年、16歳より前川の主宰する「未國」に参加。2012年より日本バレエ協会公演に出演。</p> <p>ボーカル 湯浅 文音 愛知県出身。2011年より今井マサキ氏に師事し、バックコーラスの経験を積み、多数メジャーアーティストのアルバムレコード、ライブ、TV番組等にコーラスとして参加。2015年よりソロ活動を開始。歌うことのみならず、ドキュメンタリー作品のナレーションに参加するなど、ジャンルを問わず、積極的に声による表現を模索している。</p>	

尺八・篠笛 大部 仁

音楽専門学校ギター科を卒業後、アジア各国を一年半に渡り旅する。インド滞在中、尺八を吹く西洋人旅行者と知り合ったのが尺八との出会い。帰国後、琴古流尺八を関一郎氏に師事。明暗流尺八を前川耕月氏に師事。NHK邦楽技能者育成会第46期卒業。「藍空工房」を立ち上げ尺八・笛の製作家としても活動している。2019三陸国際芸術祭の三陸芸能短期留学にて、岩手県大船渡市の民俗芸能を習う。

和太鼓奏者 上杉 美穂

1993年【和太鼓音楽集団鼓代神】初代メンバーとしてプロデビュー。1999年独立後、DJ、ダンサー、様々な楽器とのコラボレーションを展開する傍ら、世界的太鼓奏者レナード衛藤氏に師事、デーモン小暮、菊地英二、芳垣安洋等と共演し、国内外で活躍。現在、自身で立ち上げたバンド【鼎-tei-】としても精力的に活動中。